

移動局 Finder(V1.3.4)

FT8 で国内アワードに挑戦中の局長さんへのお助けマンアプリ、IDOU_Finder を作ってみました。

国内アワードに挑戦しているとき、移動局が移動先の JCC/G コードを流してくるのを、WSJTX/JTDX が 15 秒毎に表示する沢山の行の中を見落とさないよう目を凝らして画面を眺めているのは結構厳しいです。さらに、アワード集めには固定局の QTH がそのアワードに必要な場合も有りますので、移動/固定の両方をチェックします。

このアプリは、WSJTX/JTDX が発信している UDP 信号を受信して、移動局が JCC/G コードを発している行のみをピックアップして移動局リストにアップすると同時に、ハムログと連動して固定局の QTH を即座に見いだせる様にしました。JTAlert を同時にお使いの場合も設定を少し変えれば使えます。

このアプリは、あくまで、プログラムの素人が作ったので、どのようなバグが有るのか、あるいは PC への影響が出るのか分かりません。作者はいかなる損害にも免責とさせていただきます。このことをご承諾いただける方のみ自己責任でインストールして、お使いいただければ幸いです。

インストールは簡単です。Zip ファイルを解凍して出てきた Setup1.msi をダブルクリックすればインストールが始まります。

注: 古いバージョンが既にインストールされている場合は、MobileF_Setup あるいは IDOU_Finder アプリを先にアンインストールを済ませてください。



画面の説明

上枠は、移動局が発した移動先 JCC/G 情報を受信したのを表示します。各行は、左から JST 時:分に続き、4 桁の数字は受信した FT8 音の周波数です。その右側が受信した内容です。各局が移動先を発信している形態は微妙に違ってきます。でも、よく見ればお判りいただけますよね。ここで表示された JCCG コードをハムログ入力画面の CODE に書き写し、下向き矢印を押して、アワードに該当する局かどうかを判断します。探している JCCG と合致すればポップアップするようにしておけば便利です。

V1.3.3 からは、該当する行内をクリックすれば、JCC/G コードに合致しておれば、ハムログ入力画面をクリアした上で CODE 枠にコード番号を転送します。その後は、下向き矢印を押すところからは同じです。

次に、固定局チェック機能について説明します。下の固定局枠には 15 秒毎に受信した固定局のコールとその局が発信しているトーン周波数をピックアップして表示させています。相手局がアワードに該当していることが分かったら、直ちに相手局をコールするためのリストです。CQ を発した局と RR73 または 73 を発信した局のみをリストアップします。“H” ボタンをクリックすると、一覧表示されている一番上のコールサインをハムログ入力画面に転送します。この局の JCC/G 情報が得られると同時に重複チェックも出来ます。H ボタンは 0.5 秒程度間隔を開けてゆっくり押しましょう。アワードに必要な JCC/G であった場合、テキストファイルがポップアップされます。

ポップアップされたということは、その他の条件もそろって居れば、その局と交信することになります。固定局リスト枠上の別枠に、検索中の局のトーン周波数とコールサインが記録されていますから、その周波数を頼りにして WSJT/JTDX の受信表示枠内のトーン周波数を先に探しましょう。そして、探したいコールサインと合致していることを確認できたら、直ちにその局を呼び出す準備をしましょう。単にコールサインだけを探せば良い話なんですが、土・日などでは、WSJT/JTDX が 15 秒ごとに表示する行数が半端な数では無いので、トーン周波数をまず探した方が速いです。お試しください。

アワード収集を効率よく行うには、アワードに必要な未交信リストから JCC/G の TXT ファイルをあらかじめ作成し、ハムログと関連付けしておきます。その局の市区町村がアワードの JCC/G に該当したら TXT ファイルの内容がポップアップされるので、すぐに相手局を呼ぶ体制に入れます。(この JCC/GTXT ファイルの作り方が解らない方は、お友達に教えてもらってください。なるべくご自分で解決して欲しいけど、分からねば、私にメール(jarl.com)またはチーム(私のコールサインで検索)で連絡ください。

一旦固定局枠に表示され H ボタンを押して検索が済んだ局は、それ以降に受信しても表示されない様にしていますが、旨く交信できなかったりした場合に、また聞こえたときにもう一度受信枠に一覧表示して欲しいことがありますので復活ボタン新設しました。相手局のコールサインを書き入れて復活ボタンを押してください。

なお、H ボタンの横には“C”ボタンがあります。これは、固定局の一覧表示を一旦消去して、新たに受信を始めるのに使います。少し席を外したりして、固定局一覧枠に多くのコールサインが表示されている様な場合、それらのデータは時間が経って古いから役に立ちそうにありません。ここは、一旦 C ボタンを押してすべて消去して、今受信したばかりの局を表示させた方が、より効率的に探せます。

画面の右下に開くボタンを追加しました。これは、起動時から沢山 H ボタンを押してチェック済みのコールを、このアプリを終了時に自動保存させています。次回、このアプリを起動したときに、最初に固定読出しボタンを押して下さい。前回の続きから始められるから便利です。

でも、あまり沢山溜まり過ぎても効率が落ちるので、2～3000局溜まった時は、次回このアプリ起動時には固定読出しボタンを押さずに通常通り作業してください。アプリ終了時に今回の作業分から新たに保存します。

受信のための準備

WSJT-X/JTDX と JTAAlert X をセットにしてお使いの方は、次ページの②から先に進んで設定してください。①は不要です。

①WSJT-X/JTDX と UDP 信号を発信するように、セットする必要があります。JTDX を例にして説明します。

UDPサーバー

UDP サーバー: 127.0.0.1 ☒ UDP要求を受け入れる

UDP サーバーポート: 2335 ☒ UDP要求があった場合に通知する

☒ ウインドウを復元するUDP要求を受け入れる

☒ 記録されたQSO ADIFデータを送ることを可能にする

☒ UDP経由で未確認のコールサインでのスポットを防止

☐ テキストフィルタをUDPメッセージのトランスミッションに適用

JTDX のファイルから設定を押して、設定画面を開けます。レポーティングタブを開けると中ほど下に上記の画面が出ます。

- ☒UDP 要求を受け入れる
- ☒UDP 要求があった場合に通知する
- ☒ウインドウを復元する UDP 要求を受け入れる の 3 か所にチェックマークを付けてください。

次に、MobileFinder を起動させ、UDP Port No.に 2335 を入れて、一旦、右上の X 印を押して終了し、再起動させてください。次回からは 2335 は自動的にセットされます。

②JTAlertX をお使いの方は設定の仕方が違います。

JTAlertX の Setting 画面から Application へと進んで、WSJT-X/JTDX の文字をクリックします。

右側の Options の枠の、Resend WSJT-X UDP packets(received only)にチェックマークを付けます。

そして、UDP サーバーは 127.0.0.1 IP Address として、UDP Port に 2336 とセットください。JTAlertX の設定画面は、Save ボタンを押してから OK を押して閉じてください。そして、JTAlertX を再起動させてください。

次に、MobileFinder を起動させ、UDP Port No.に 2336 を入れて、一旦、画面右上の X 印を押して、再起動させてください。

これで、準備ができました。

UDP サーバポート番号は非常にきめ細かく取り決められ、我々が使える番号はごく限られています。ポート番号は勝手な番号を使わないでください。

By JA3CLM Oct., 2025

V1.3.4

町村コード抽出がごく稀に抽出されないことが有ったので修正

V1.3.3

移動局の JCC/G コードをクリックするだけでハムログ入力画面をクリアしたうえで、CODE 枠に移動させました。

V1.3.2

固定枠の上に別枠を設けて、固定局の検索中のコールとそのトーン周波数を残すようにしました。

V1.3.0 変更点

固定局枠内に相手局のトーン周波数とコールサインを併記するようにしました。その理由は、上の説明に書いています。